

幼 稚 園

令和3年度

教育研究員研究報告書

幼 稚 園

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究構想図	2
III	研究内容	3
	1 幼児が自分の思いを言葉で表現する発達過程	
	2 自分の思いを言葉で表現するために経験させたい内容	
	3 発達段階に応じて幼児が自分の思いを言葉で表現することを楽しむための保育者の援助	
IV	検証保育	7
	1 2年保育 4歳児 9月下旬	
	2 2・3年保育 5歳児 10月下旬	
V	研究の成果	14
VI	今後の課題	14

研究主題

自分の思いを言葉で表現することを楽しむ幼児を育てる ～友達と関わりながら遊ぶ場面に着目して～

I 研究主題設定の理由

多くの幼児にとって園生活は、家庭から離れて同年代の幼児と日々一緒に過ごす初めての集団生活である。幼稚園教育要領 第2章 ねらい及び内容 言葉 1 ねらいには「(1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。」¹と明記されている。また、2 内容には「(2) したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。」²、「(3) したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。」³とある。幼児が、園生活で人と関わる中で、言葉で表現することを通して得られる様々な感情体験を通し、言葉で表現する楽しさを感じられるようにすることの重要性が示されている。

また、幼稚園教育要領 第1章 第2 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」には、「(前略) 経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。」⁴と明記されている。言葉による伝え合いを楽しむようになるためには、言葉で伝えることと、話を聞くことの両面が重要な要素であると示されている。

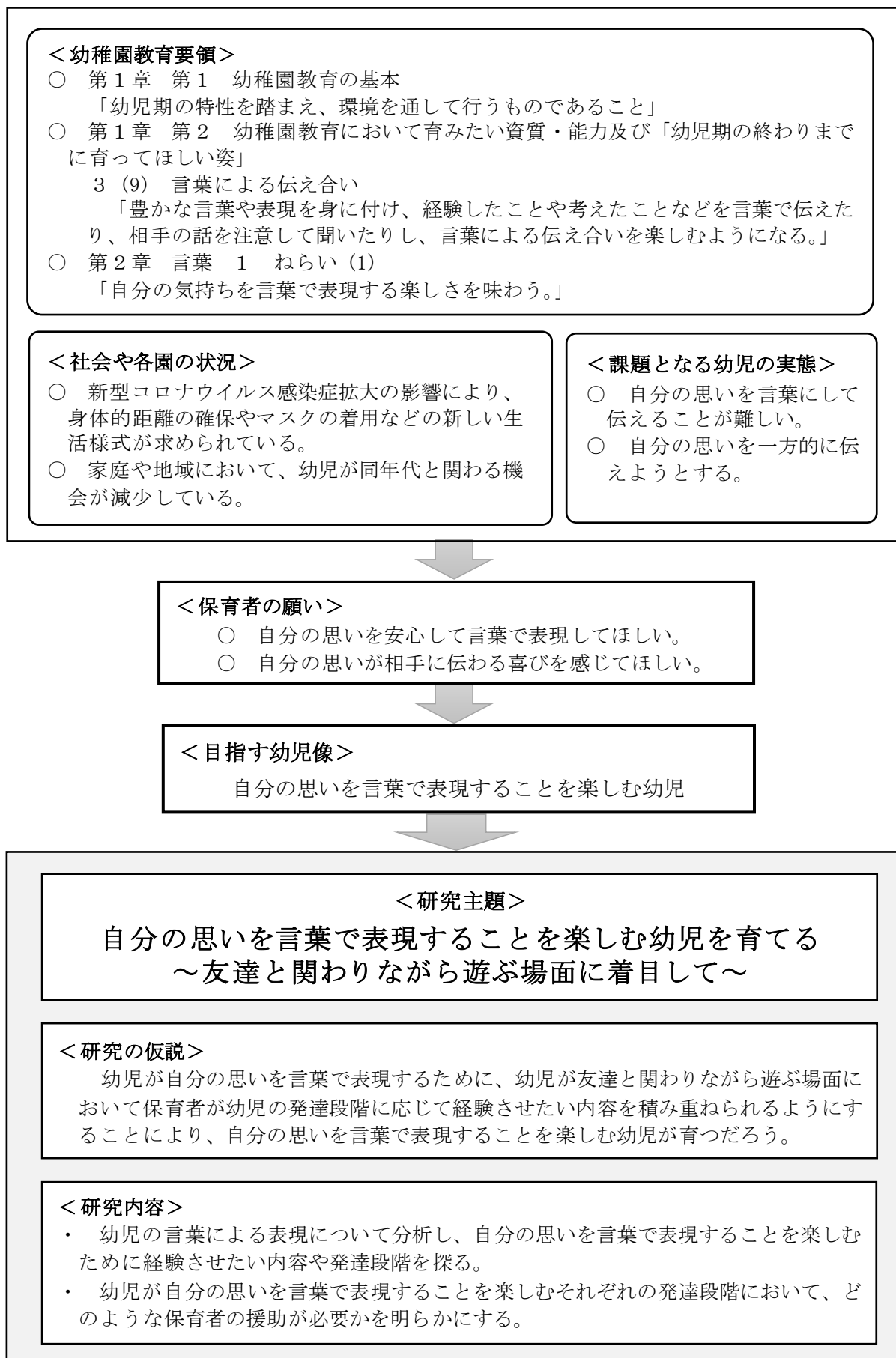
さらに、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による新しい生活様式が求められる中で、各園においても身体的距離の確保や日常的なマスクの着用など、人との関わり方に変化が見られるが、保育者はこれまでの保育で大切にしてきた内容を実践できるよう工夫し、幼児が言葉で伝えることや話を聞くことが十分に経験できるようにしている。しかし、部員の所属園の幼児の実態について課題を出し合ったところ、新しい生活様式への転換との因果関係は明らかになっていないものの、保育者や友達に自分の思いを言葉にして伝えることが難しくかったり、伝え方が一方的になってしまったりする幼児の姿が共通して見られた。部員間で協議したところ、日常的なマスクの着用により相手の表情から気持ちを読み取りづらいことや、自粛期間に自宅で過ごす時間が長く、地域の公園などで同年代の幼児との関わりが減少したことなどが要因として考えられるのではないかとの結論に至った。

そこで今般の状況を加味し、園生活を通して幼児に友達と関わる中で自分の思いを安心して言葉で表現することを十分に経験し、自分の思いが相手に伝わる喜びを感じてほしいと考えた。そのため、本研究では、言葉による伝え合いにつながる重要な要素である言葉で表現することに着目して研究を進めることとした。また、園生活は遊びを中心に展開されることを踏まえ、言葉で表現することを楽しむ姿は特に友達との遊びを通して育まれると考えたため、本研究では、友達と関わりながら遊ぶ場面に着目して、本研究主題を設定し、保育者の援助について探ることとした。

^{1,2,3} 幼稚園教育要領（文部科学省 平成30年3月） p.26

⁴ 同上 p.1

II 研究構想図



Ⅲ 研究内容

1 幼児が自分の思いを言葉で表現する発達過程

幼児期の言葉の発達について、幼稚園教育要領解説⁵に以下の記述がある（下線は、本研究による。）。

心の中に話したいことがたくさんあっても、まだうまく言葉で表現できない幼児、友達には話せるが教師には話せない幼児など、自分の思いどおりに話せない¹場合も多い。（中略）教師や友達からの言葉による働き掛けや様々な表現に触れたり、言葉でやり取りしたりすることによって、次第に自分なりの言葉²から人に伝わる言葉³になっていき、場面に応じた言葉が使えるようになっていくのである。

以上のように、幼児期の言葉の発達に関する記述から、幼児が言葉を獲得し自分の思いを表現することには、下線部1から3の順に発達過程があると読み取ることができる。幼児の発達過程には、下線部1のように、自分の思いどおりに話すことができず、表情や動作などで表す場合もあるため、保育者は幼児の言葉による思いの表現だけでなく、発達過程に応じて幼児一人一人が自分なりに思いを表現しようとする姿を捉えることが大切であると考えた。そのため、幼児が自分の思いを言葉で表現することができるようにするために、保育者は、その発達過程を踏まえて幼児一人一人の実態に即した援助を行うことが重要である。

2 自分の思いを言葉で表現するために経験させたい内容

以上の発達過程を、就学前教育カリキュラム改訂版ハンドブック⁶の3歳児から5歳児の発達に応じて確実に経験させたい内容と照らし、発達過程ごとに幼児に経験させたい内容を導き出し、自分の思いを言葉で表現するために経験させたい内容を表1にまとめた。

表1 自分の思いを言葉で表現するために経験させたい内容と根拠資料との関連

発達過程 (下線部は、幼稚園教育要領解説 ⁵ より)	発達に応じて確実に経験させたい内容 (就学前教育カリキュラム改訂版ハンドブックより)	自分の思いを言葉で表現するために経験させたい内容
1 <u>自分の思いどおりに話せない</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・ したことや感じたことなどを、保育者に受け止められ、安心感をもつ。(3歳児) ・ 自分の思ったことや感じたことを言葉や行動など、自分なりに表現しようとする。(3歳児) 	表情や動作などで表す
2 <u>自分なりの言葉で表現する</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の思ったことや感じたことを言葉や行動など、自分なりに表現しようとする。(3歳児) ・ 保育者や友達に親しみをもって挨拶したり、保育者や友達と会話を楽しんだりする。(4歳児) 	自分なりの言葉で表す
3 <u>人に伝わる言葉で表現する</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲の良い友達の中で、思いや考えを出し合いながら遊ぶ楽しさを味わう。(4歳児) ・ 友達の言うことを受け入れたり、自分の思いを伝えたりしながら話すことを楽しむ。(5歳児) ・ 遊びや生活の中で必要なことを、相手に分かるように話し方や言葉を考えて伝えようとする。(5歳児) 	相手に伝わる言葉で表す

⁵ 幼稚園教育要領解説（文部科学省 平成30年3月） p.225

⁶ 就学前教育カリキュラム改訂版ハンドブック（東京都教育委員会 平成30年3月） p.17～18

前項の表1の「自分の思いを言葉で表現するために経験させたい内容」と言葉による伝え合いの関係性を図1に表した。

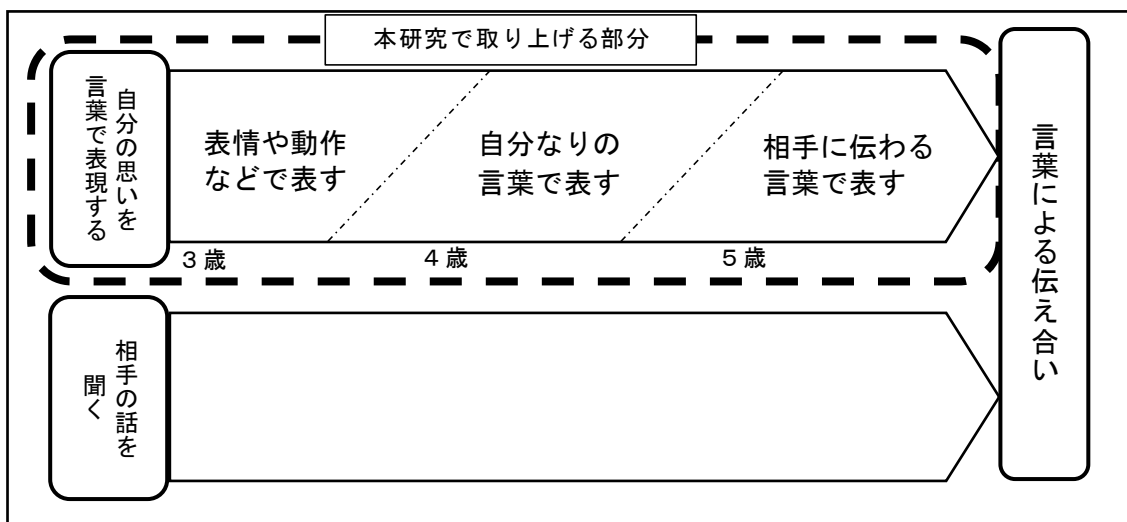


図1 自分の思いを言葉で表現するために幼児に経験させたい内容のイメージ図

3 発達段階に応じて幼児が自分の思いを言葉で表現することを楽しむための保育者の援助

幼児が自分の思いを言葉で表現するための保育者の援助について、幼稚園教育要領解説⁷には以下のように示されている（下線は、本研究による。）。

教師や友達との温かな人間関係を基盤にしなが、幼児が徐々に心を開き、安心して話ができるように援助していくことが大切である。（中略）教師や友達との関わりの中で、心を動かされるような体験を積み重ね、それを言葉で伝えたり、教師や友達からの言葉による働き掛けや様々な表現に触れたり、言葉でやり取りしたりする（後略）。

保育者は、幼児の実態を丁寧に読み取るとともに、幼児が保育者や友達との温かな人間関係を基盤に、安心して自分の思いを言葉で表現できるような援助を行う必要がある。また、保育者は、幼児が園生活を通して心を動かされるような体験を積み重ねることで、言葉を獲得していくことを十分に踏まえ、援助を行うことが重要である。

さらに、幼稚園教育要領解説⁸には、幼児が自分の思いを言葉で表現することを楽しむことについて、以下のように示されている。

幼児は幼稚園生活を楽しいと感じられるようになると、自分の気持ちや思いを自然に教師や友達に言葉や表情などで伝えるようになり、友達との生活の中で自分の思いを言葉にすることの楽しさを感じ始める。そして、教師や友達が話を聞いてくれることによって、言葉でのやり取りの楽しさを感じるようになる。

このように、自分の思いを言葉で表現することについては、表現することさえできればよいのではなく、表現することを楽しむことが大切であると示されている。

⁷ 幼稚園教育要領解説（文部科学省 平成30年3月） p.225

⁸ 同上 p.226

そのため、図1に示した内容についても、幼児が楽しみながらそれらを経験できるようにすることが大切であると考え。保育者は、幼児が自分の思いを言葉で表現することを楽しむことができるような援助を行うことが重要である。

そこで、友達と関わりながら遊ぶ場面の4歳児・5歳児の事例を検討し、幼児に経験させたい内容の「表情や動作などで表す」から「自分なりの言葉で表す」を「①思いを言葉にする」段階、幼児に経験させたい内容の「自分なりの言葉で表す」から「相手に伝わる言葉で表す」を「②思いを言葉で伝える」段階とし、それぞれの発達段階に応じ、言葉で表現することを楽しむために経験させたい内容を図2にまとめた。

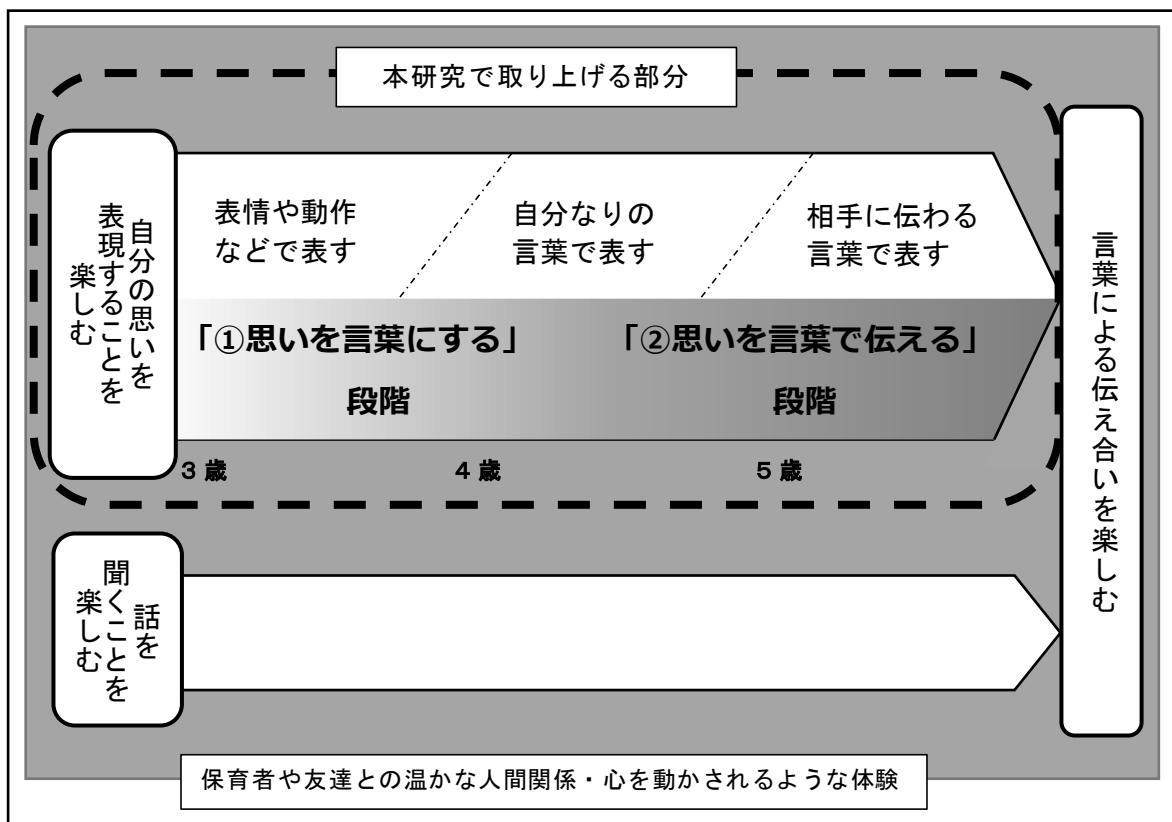


図2 言葉で表現することを楽しむためにそれぞれの発達段階において経験させたい内容

幼児がそれぞれの発達段階において経験させたい内容を積み重ねていくためには、保育者がそれぞれの発達段階で課題となる幼児の姿を的確に捉えた上で、適切な援助をすることが必要であると考えた。そこで、友達と関わりながら遊ぶ場面の事例を検討し、各発達段階に概ね見られた課題となる幼児の姿を示し、その姿に対する保育者の主な援助をキーワードで示すとともに、その援助の具体例を表2にまとめた。この表は、幼児一人一人の実態に即し、課題となる幼児の姿に照らして、援助を選択する際の指標として活用することを意図して作成したものである。

なお、課題となる幼児の姿に対する主な保育者の援助について、**支える**、**見守る**、**確かめる**、**受け止める**、**引き出す**、**知らせる**、**代弁する**、**気付かせる**、**認める**の9点をキーワードとして示すとともに、具体的な援助の手だての例を示した。

表2 自分の思いを言葉で表現することを楽しむ幼児を育てるための援助

発達段階	課題となる幼児の姿	□ 保育者の援助 ・ 具体的な援助の手だて
① 思いを言葉にする	<p>ア</p> <p>自信がなく、言葉で表していない。</p>	<p>支える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思いを表そうと思えるように励ます。 ・ 保育者が味方してくれる、理解してくれていると実感できるように言葉を掛ける。 ・ 保育者が一緒に言う。 <p>見守る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉で表すのを待つ。 ・ 安心感がもてるよう幼児のそばにいる。 ・ 温かいまなざしを向けたり、目線を合わせたりする。 <p>引き出す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思いを言葉にするきっかけになるように言葉を掛ける。 ・ 思いを出しやすい雰囲気をつくる。 ・ 自分の思いを表す場を設定する。 <p>認める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉に表したことで相手に伝わったことを実感できるように、言葉を掛ける。 ・ 自信がもてるよう、幼児なりに工夫した点を具体的に認める。
	<p>イ</p> <p>言葉での表し方が分からない。</p>	<p>確かめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのようにしたいか、分かりやすい言葉で聞き出す。 <p>受け止める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉にならない思いを読み取り、受け止める。 <p>知らせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な言い方を教える。 ・ 相手に伝える姿を見せ、言葉での表し方のモデルを示す。 <p>代弁する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉で補ったり、言い換えたりする。
② 思いを言葉で伝える	<p>ウ</p> <p>思いを言葉に表しているが、相手に伝わっていないことに気付いていない。</p>	<p>見守る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児同士のやり取りを見守り、相手の反応に気付く機会をつくる。 <p>確かめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたい相手を聞き、意識させる。 <p>気付かせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手に伝わっていないことに気付けるよう、言葉を掛ける。 ・ 自分の思いが伝わっていないことを自覚できるように、相手と話す場をつくる。 <p>認める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝える意欲や自信につながられるよう、自分なりに伝えている姿を具体的に認める。 ・ 幼児の言動を価値付ける。
	<p>エ</p> <p>思いを言葉に表しているが、相手に伝わる言葉になっていない。</p>	<p>見守る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの思いが相手に伝わっているか、幼児同士のやり取りを見届ける。 ・ 安心できるよう、自分なりに伝えている姿に目線を送る。 <p>受け止める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の言葉から思いを読み取り、受け止める。 <p>知らせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手に伝わる具体的な言い方や伝え方を知らせる。 ・ 伝えたい相手と、思いを共通認識できるよう、状況を分かりやすい言葉に置き換える。 <p>気付かせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのように言うと相手に伝わるのか、考えられるような言葉を掛ける。 ・ 相手の思いに気付けるように、相手の言動に意識を向けられるような言葉を掛けたり場をつくったりする。

IV 検証保育

「図2 言葉で表現することを楽しむためにそれぞれの発達段階において経験させたい内容」の中で、課題と感じられる幼児の姿を捉え、保育者が「表2 自分の思いを言葉で表現することを楽しむ幼児を育てるための援助」を用いて適切な援助を行うことにより、幼児が言葉で表現することを楽しむようになることを検証するため、保育を実施した。

1 2年保育 4歳児 9月下旬


(1) 検証内容

- ・ 「①思いを言葉にする」段階における保育者の援助の有効性と具体的な援助の手だてを探る。

<検証保育 指導案 A児（抜粋）>

<p>< A児の実態 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達がしている遊びを見て過ごしていることが多い。恥ずかしさや自信のなさから、自分から保育者や友達に関わろうとしたり、自分の思いを言葉で表現したりすることが少ない。 <p><ねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安心感をもって保育者や友達と関わり、自分の思いを表しながら遊ぶ楽しさを感じる。 	
<p>予想される対象児の姿</p>	<p><input type="checkbox"/> 保育者の援助（表2より）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A児に対する具体的な援助の手だて
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の好きなアイスをコーンに載せたり、作ったものを保育者に見せたりして遊びを楽しむ中で、自分の思いを言葉で表そうとする。 ・ 同じ場にいる友達の動きを見たり、話していることを聞いて動こうとしたりする。 ・ 保育者や友達から話し掛けられたことに応答しようとする。しかし、返事をしない時もある。 ・ 店員や客になってごっこ遊びを楽しみ、遊びの中で必要な言葉を言おうとしたり、やり取りを楽しんだりする。 ・ 遊びに必要な言葉は分かっているが、言葉では表さずにいる。 	<p><input type="checkbox"/> ア 支える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安心できるように言葉を掛ける。 <p><input type="checkbox"/> イ 確かめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の思いを言葉にしながらか遊びに関われるように、気持ちを確認する。 <p><input type="checkbox"/> ア 見守る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と関わる中で、安心して自分の思いを表せるように寄り添ったり、励ましたりする。 <p><input type="checkbox"/> イ 代弁する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 状況に応じて保育者が思いを代わりに伝える。 <p><input type="checkbox"/> ア 引き出す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 役になりながら言葉でやり取りする楽しさを感じられるように、保育者がモデルとなって動いたり、思いを聞いたりする。 <p><input type="checkbox"/> ア 引き出す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思いを聞いて、言葉で表せるようにする。 <p><input type="checkbox"/> ア 認める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少しでも自分から言葉にしようとする姿を具体的に褒める。

<当日の保育（アイス屋さんごっこ）における記録と分析>

<p>幼児及び保育者の姿 (「①思いを言葉にする」に つながる幼児の姿)</p>	<p>◎ 保育者の思いや願い □ 保育者の援助(表2より) ・ この場面における具体的援助の手だて</p>	<p>○ 分析</p>
<p>前週にアイス作りをしていたA児と保育者が開店の準備を始める。すると、B児が椅子を持って場に来る。保育者は、B児に「アイス屋さんはAちゃんが始めたから、一緒にお店の人がやってもいいか聞いてみて。」と促す。B児が、A児に「やってもいいかな。」と尋ねるとA児は「いいよ。」と答える。(1)</p> <p>前週と一緒にアイス作りをしていたC児も椅子を持って場に来る。保育者は、「Cちゃんは金曜日もやっていたよね。一緒にやってもいいかな。」とA児に聞く。A児は「いいよ。」と答える。(2)</p> <p>保育者は「BちゃんとCちゃんが来てよかったね。嬉しいね。」と言葉を掛ける。A児は嬉しそうな表情を見せる。(3)</p> <p>開店の準備が整うと、「アイスください。」と友達が遊びに来る。A児がアイスを作ろうとすると、C児が「私がコーンに載せる人だよ。」と言う。A児は何も答えず、保育者を見る。(4)保育者は、「順番にできるように、役割を決めたらどうかな。」と言葉を掛ける。</p> <p>すると、B児が「私がビってして(商品を読み取る動き)、Aちゃんがレジを打つ人で、Cちゃんがアイスを作る人だよ。」と、それぞれレジやアイスを指差す。保育者は「Aちゃんはどれがやりたいのかな。」と尋ねる。A児はレジを指さす。(5)保育者が「レジがやりたいのかな。」と聞くと、A児はうなずく。(6)</p> <p>レジの係になったA児は、次のお客さんが来た時に、B児とC児がレジを通さずにアイスを渡したのを見て、「お金払ってないよ。」と言う。しかし、B児とC児は気付いていない。(7)その様子を見て保育者がA児に「お客さん、お金払っていたかな。」と聞くと、A児が「払ってない。」と答える。(8)</p>	<p>(1) ◎ A児が始めた遊びを大切に するため、A児の思いを確かめたい。 ア 見守る ・ 安心感をもてるように寄り添う。 ア 引き出す ・ 友達とのやり取りのきっかけをつくる。</p> <p>(2) (3) ◎ 安心して言葉で思いを表 してほしい。 ア 引き出す ・ 思いを言葉で表そうと思 える雰囲気をつくる。 ア 支える ・ 自分で言えたと実感でき るような言葉を掛ける。</p> <p>(4) ◎ それぞれの思いを受け止 めたい。 ア 支える ・ 保育者が分かってくれて いるという安心感をもてるよ うにする。 イ 受け止める ・ 動きや表情から思いを読み 取り、探る。 ・ 言葉にならない思いを受け 止める。</p> <p>(5) (6) ◎ 互いの思いに気付かせ、自 分の思いを出しながら一緒に 遊ぶ楽しさを感じてほしい。 イ 確かめる ・ 思いを確認し、言葉で表す ことを促す。</p> <p>(7) (8) ◎ A児の言葉を大切にした い。 ア 支える ・ 言葉を拾い、分かってく れている人がいるという安心 感をもてるようにする。 イ 引き出す ・ 思いを更に表せるような 言葉を掛ける。 ・ 思いを言葉で表すきかけ をつくる。</p>	<p>(1) ○ 保育者が思いを言 言葉にする機会をつ くったことで、友達か ら尋ねられたことに 対して言葉で返事す るなど、やり取りに必 要な言葉を言おうと していた。</p> <p>(2) ○ 思いを言葉にする きっかけや温かな雰 囲気をつくったこと で、思いを言葉にする 緊張感が和らいだ。</p> <p>(3) ○ 友達がいる嬉し さに共感したことで、友 達と一緒に遊ぶ楽し さを感じていた。</p> <p>(4) ○ 思いはあるがすぐ には言葉にすることが できず、保育者に視 線を送っていた。</p>  <p>(5) (6) ○ 言葉にはなってい ないが、自分なりの思 いはある。保育者が確 かめたことで、思いが 表れた。</p> <p>(7) ○ 自分から言葉にし て思いを伝えようと したが、相手には届い ていなかった。</p> <p>(8) ○ 伝えたい思いを保 育者に対し素直に言 言葉で表した。保育者 との関わりに安心感 をもっていたことが、 自分の思いを言葉に する姿につながった。</p>

<p>保育者がレジでのやり取りを促すと、<u>A児がB児とC児に対して「レジ、まだ打っていないよ。」と言う。</u>(9) C児からアイスを受け取ると、レジの電卓を打ち、「どうぞ。」と言って<u>お客さんにアイスを渡したり、「100円です。」と支払いのやり取りをしたりして、笑顔で遊ぶ。</u>(10)</p>	<p>(9) (10) ◎ 遊びの仲間として関わりながら、幼児同士のやり取りを見守ろう。 <u>ア 見守る</u> ・一緒に遊びながらそばで見守り、自分のペースで話せるようにする。</p>	<p>(9) ○ 思いを自分なりの言葉で表し、友達に伝えようとしていた。 (10) ○ 思いが相手に伝わる嬉しさを感じ、保育者の直接的な援助がなくても言葉でのやり取りを楽しんでいた。</p>
---	---	--

(2) 考察

- ・ 幼児が言葉で表現することを楽しむためには、まず、幼児が身近な存在である保育者に対して、自分なりの言葉で思いを表せるように援助していくことが必要である。保育者は幼児の言葉にならない思いも含めてありのままを受け止め、幼児が安心して自分の思いを表せる温かな関係性を築いていくことが大切である。
- ・ 「①思いを言葉にする」段階においては、保育者が幼児の表情や動作などから思いを丁寧に読み取り、気持ちに寄り添うことで、幼児が安心感をもち、自分なりに言葉で表そうと思えるような援助が大切である (ア 見守る)。
また、幼児が自分の思いが相手に伝わる嬉しさを感じられるようにするために、保育者が仲介役となり、思いを確かめたり言葉を引き出したりすることが重要である (ア 引き出す)。
- ・ 友達と関わりながら遊ぶ場面で、幼児は自分のしている遊びの楽しさを見付け、自分のやりたいことに向かって遊びを進めることを通して、自分の思いを言葉にしたいという気持ちが揺さぶられ、思いを言葉にしようという意欲が芽生えていくことが分かった。まずは、保育者とのやり取りを十分に楽しみ、思いを言葉で表すことに安心感をもてるようにし、徐々に友達にも自分から思いを表せるように支えていくことで、「②思いを言葉で伝える」段階へとつながるように援助することが重要である。

2 2・3年保育 5歳児 10月下旬

(1) 検証内容

- ・ 「②思いを言葉で伝える」段階における保育者の援助の有効性と具体的な援助の手だてを探る。

<検証保育 指導案 D児（抜粋）>

<p><D児の実態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の思い付いたことや、友達のしていることに対して思いを伝えながら遊ぶ姿が見られている。自分のやりたいようにできなかつたり、自分の言っていることを相手に分かってもらえなかつたりすると怒って泣き、伝えることを諦めてしまう。 <p><ねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の思いを相手に分かるように伝えようとしながら、友達と一緒に遊びを進める。 	
<p>予想される対象児の姿</p>	<p><input type="checkbox"/> 保育者の援助（表2より）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ D児に対する具体的な援助の手だて
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えた方法を言葉にしたり、一緒に遊ぶ友達に伝えたりしながら、必要なものを作って遊ぶ。 ・ 自分の思いを友達に伝えているが、自分本位の伝え方になり、一緒に遊ぶ友達に伝わらない。 ・ 自分のイメージと相手のイメージがぶつかり、自分の思いどおりにいかない場面になると、怒ったり、黙ってその場から離れたりする。 ・ どのように言えばよいか分からなかつたり、言葉が足りなかつたりして相手に本児の思いが伝わらず、黙ったり保育者を頼ったりする。 ・ 一緒に遊ぶ友達の思いに気付かず、自分の思いどおりに遊びを進めようとする。 	<p><input type="checkbox"/> ウ 認める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思いが伝わる実感をもてたり、友達と考えを出し合って遊びを進める楽しさを感じたりできるように、自分なりに伝えている姿を言葉にする。 <p><input type="checkbox"/> ウ 確かめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一緒に遊んでいる相手が誰かを聞き、伝えた相手を意識させる。 <p><input type="checkbox"/> ウ 気付かせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手に伝わっていないことに気付けるよう言葉を掛ける。 <p><input type="checkbox"/> ウ 見守る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児同士でやり取りをする様子を見ながら、相手の反応に気付く機会をつくる。 <p><input type="checkbox"/> ウ 気付かせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手に自分の思いが伝わっていないことを自覚できるように、相手と話す場をつくる。 <p><input type="checkbox"/> エ 気付かせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本児の伝えようとしていることを整理し、どのように言えば相手に伝わるのか考えられるような言葉を掛ける。 <p><input type="checkbox"/> エ 知らせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思い付かない場合は言葉を補ったり、伝わりやすい言葉に言い換えたりする。 <p><input type="checkbox"/> エ 知らせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ場で遊ぶ幼児の言動や遊びの状況を分かりやすい言葉に置き換えて、共通認識できるようにする。 <p><input type="checkbox"/> エ 気付かせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一緒に遊ぶ友達の言動に意識を向けられるような言葉を掛ける。

< 検証保育 指導案 E児 (抜粋) >

<p>< E児の実態 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の思いやイメージなどをよく言葉にしながらか遊びを進めている。一方で、自分の思いどおりに進めようとしたり、相手に自分の思いが伝わらなかつたりすると、口調が強くなり、友達と言ひ合ひになることがある。 <p>< ねらい ></p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の話を聞いて思いに気付き、相手に伝わるような言葉や話し方を自分で考えて伝えようとしながらか、友達と一緒に遊びを進める。 	
<p>予想される対象児の姿</p>	<p><input type="checkbox"/> 保育者の援助 (表2より)</p> <ul style="list-style-type: none"> E児に対する具体的な援助の手だて
<ul style="list-style-type: none"> 遊びのイメージが豊かで、作ろうとするものや必要なものなどを言葉にして伝えながら、大型積木や大型ブロックを構成して遊ぶ。 一緒に遊ぶ友達にイメージやこうしたいという思いを提案するが、言葉が足りないことで相手に伝わらない。 自分のしようとしていることを、相手に伝えるよりも先に行動に移したり、相手に断りなく動かしたりすることで注意され、言ひ合ひになる。 相手の話を聞いているものの、自分の思いどおりに進めたい気持ちから、話を聞き流して遊びを進めている。 自分のイメージと相手のイメージがすれ違ふと、強い口調で自分の思いを主張する。 	<p>エ 見守る</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児同士の思いが互いに伝わっているか、やり取りの様子を見届ける。 <p>ウ 認める</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のしようとしていることが友達に伝わり、遊びが進んでいく実感がもてるよう、自分なりに伝えている姿を言葉にする。 <p>エ 気付かせる</p> <ul style="list-style-type: none"> どのように言えば相手に伝わるのか考えられるような言葉を掛ける。 <p>エ 知らせる</p> <ul style="list-style-type: none"> 悩んでいるときには言葉を補ったり、伝わりやすい言葉に言ひ換えたりする。 <p>ウ 気付かせる</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のしようとしていることを相手に言葉で伝えたかどうかを聞く。 <p>ウ 気付かせる</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手に自分の思いが伝わっていないことを自覚できるよう、相手と話す場をつくる。 <p>エ 受け止める</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児の言葉から思いを読み取り、受け止める。 <p>エ 気付かせる</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の思いに気付けるよう幼児同士が話す場をつくり、互いに納得をして遊べる方法を考えられるようにする。

< 当日の保育 (カヌーごっこ) における記録と分析 >

<p>幼児及び保育者の姿 (___ 「◎思いを言葉で伝える」に つながる幼児の姿)</p>	<p>◎ 保育者の思いや願い □ 保育者の援助 (表2より) ・ この場面における具体的な援助の手だて</p>	<p>○ 分析</p>
<p>D児は、E児らが3日前から始めた大型積木や大型ブロックを使ったカヌーごっこに興味をもち、自ら遊びに関わり始めた。友達の様子を見て、ブロックをつなぎ合わせてカヌーを作っていく。</p> <p>保育者がD児の近くに行くと、D児は、「カヌーに尻尾を付けたいんだよね。でもこう</p>	<p>(1) ◎ D児に自分の思いが相手に</p>	<p>(1) ○ 保育者がD児の遊</p>

なっちゃうかもしれないからさ。」と話しながら手を床に近付けて動かすジュエスチャーをする。⁽¹⁾保育者は、「尻尾を長くすると倒れて地面を引きずるかもしれないからってことかな。」と言葉を返す。

E児が、カヌーごっこをしている友達に聞こえるようにホール全体に向かって、カヌーのコースについて提案する。D児もE児の方を向いて、耳を傾けている。しばらくして保育者は、D児に、「Dくん、Eくんの言っていること分かったかな。」と聞く。D児は、「うん。でも無理だと思うよ。ここが小さいと思う。」と答える。⁽²⁾保育者が「ここって、積木と積木の間のことかな。幅が小さいからカヌーが狭くて通れないってことかな。」と言うと、D児は「うん、そう。」と答える。⁽³⁾保育者は「なるほど。それEくんに教えてあげるといいよ。」とD児に言う。しかしD児は、E児に言わなかった。のちに、他の幼児がE児の提案を聞いてコースを作り変えていると、D児が狭くて通れないと考えていた場所は通れるようになった。保育者は「今度はDくんが考えたことをすぐに教えてあげるといいね。」とD児に言う。D児はそれを黙って聞きながら、遊び続ける。⁽⁴⁾

カヌーやコースが完成し、3歳児や4歳児が遊びに来る。保育者は「どこに並んだらいいんだろう。」と、カヌーごっこをしている幼児に聞こえるようにつぶやいた。D児は保育者の言葉を聞いて、「ここに並んでください。」と大きな声で言う。⁽⁵⁾保育者は『『そこに並んで』ってDくんが教えてくれたから、みんな並ぶところが分かったみたい。よかった。』と言葉を掛ける。

カヌーに乗るため、スタート地点にお客さんが15人程並んでいたが、D児は「ぼくのカヌーに乗りたい人はいますか。」と聞いて回り、順番に関係なく幼児を乗せていく。⁽⁶⁾保育者はD児のそばで様子を見る。

D児の言動に気が付いたE児が、強い口調で「だめ。」と言う。D児は何も言わない。⁽⁷⁾

伝わるような言い方に気付いてほしい。

イ 知らせる

- D児が動きで表していることを、保育者に伝わる言葉に言い換えられるようにする。

(2) (3) (4)

- ◎ D児に自分の思いを相手に伝えてみようと思っしてほしい。

ア 引き出す

- 思いを言葉にして伝えるきっかけになるよう言葉を掛け、次は言うてみようと思えるようにする。

エ 知らせる

- 思いを聞き出しながら、相手に伝わる言い方に言い換える。

(5)

- ◎ D児にも同じ遊びの仲間の一員として、思いを伝えながら遊んでほしい。

ウ 認める

- 相手に伝わった喜びを感じられるよう言葉を掛け、D児の言動を価値付ける。

(6)

- ◎ D児が他児と違うことをしていることに気づき、幼児同士で思いを伝え合っほしい。

ウ 見守る

- 他児がD児の行動に気づき、互いに思いを言葉で伝える姿を待つ。

(7)

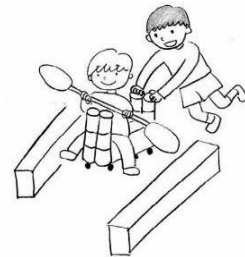
エ 見守る

- E児がD児に思いを伝えようとする様子を見届ける。

びのイメージを補足し、D児のやりたいことを整理した。

(2) (3) (4)

- D児とE児と一緒に遊ぶことの少ない関係性であることや、D児が遊びに加わったばかりという状況を考慮し、D児の思いを聞き出し相手に伝えることを提案し、D児が自ら思いを伝えようとする機会を待っていた。



(5)

- 相手に伝わる言い方ができていることを認めたことで、その後も、3・4歳児に向けて、自分なりの言葉で伝えながら遊ぶ姿が見られた。

(6)

- 幼児同士の思いがすれ違っている様子をあえて言葉を掛けずに見守り、幼児が相手の反応を見て思いを伝えようとする姿を待っていた。

(7)

- E児は相手に伝えようとする気持ちはあるが、言葉が足りず理由を言えてなかったことで、D児に思いが伝わっていなかった。

<p>保育者は「なんでだめなのかな。なんでだめか教えてくれないとDくんは分からないよ。」とE児に伝える。E児は「だって、前にこんなに並んでいてずっと待っているよ。途中からはずい。」と<u>言う。</u>⁽⁸⁾</p> <p>D児はE児の言葉を聞いて納得した表情になる。⁽⁹⁾そして、列の先頭に行き、前の人から順番に乗せていく。</p> <p>その後も遊びは1時間程続いた。</p>	<p>(8)</p> <p>◎ E児に相手に伝わる言い方を自分なりに考えてほしい。</p> <p>ウ 確かめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたい相手を意識できるようにする。 <p>ウ 気付かせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ D児に思いが伝わっていないことに気付けるよう、言葉を掛ける。 <p>エ 受け止める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ E児のやめてほしいという思いを受け止める。 <p>エ 気付かせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手に伝わる言い方を自分で考えられるような言葉を掛ける。 <p>(9)</p> <p>◎ 片方の意見を通すのではなく、互いに納得してほしい。</p> <p>エ 見守る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児が互いに納得し、次の行動につながっているか見届ける。 	<p>(8)</p> <p>○ どのように言えば相手に伝わるかを自分で考えられるように援助したことで、E児は自分なりの言葉で理由を話し、思いを伝えていた。</p> <p>(9)</p> <p>○ D児はE児の話聞いたことで納得し、思いを受け止めていた。</p>
--	--	--

(2) 考察

- ・ 幼児が言葉で表現することを楽しむためには、相手に自分の思いが伝わり、友達と一緒に遊ぶ嬉しさを味わうことが大切であるが、「②思いを言葉で伝える」段階の幼児でも、表情や行動などで思いを表したり、友達との関係性によって思いを言葉にして伝えられなかったりすることが分かった。保育者は、幼児がそれぞれの発達段階を歩きつ戻りつしていくことを考慮し、課題となる幼児の姿を適切に捉えた援助をしていくことが必要である。
- ・ 「②思いを言葉で伝える」段階においては、具体的に伝え方を提案し、幼児の言動について価値付ける言葉掛けをすることで、幼児は相手に思いが伝わる喜びや伝えられた満足感を感じることができる (**ウ 認める** **エ 知らせる**)。

また、一緒に遊ぶ友達に対して、幼児が相手の反応に気付き、自ら必要感をもって思いを伝えようとしたり、相手に伝わる言葉を自分で考えたりする機会をつくる援助が必要である。保育者は幼児同士のやり取りを見届け、幼児が自ら思いを言葉で伝える場をつくるために、幼児の実態に応じて保育者がタイミングよく言葉を掛けることが重要である (**ウ 見守る** **エ 気付かせる**)。
- ・ 友達と関わりながら遊ぶ場面において、自分の思いが相手に伝わり、遊びが楽しくなることを実感すると、更に自分の思いを言葉で表そうとする気持ちが出てくることが分かった。幼児が友達と言葉による伝え合いを楽しむためには、遊びを通して、友達との信頼関係を基盤に自分の思いを言葉で相手に伝えていく経験を積み重ねることが重要である。

V 研究の成果

1 幼児が自分の思いを言葉で表現することを楽しむために経験させたい内容とそれぞれの発達段階について

幼児が自分の思いを言葉で表現することに着目し、幼稚園教育要領解説と就学前教育カリキュラム改訂版ハンドブックから関係する内容を抽出、分析し、「図2 言葉で表現することを楽しむためにそれぞれの発達段階において経験させたい内容」にまとめ、可視化した。

また、幼児が自分の思いを言葉で表現することを楽しむために経験させたい内容を「表情や動作などで表す」「自分なりの言葉で表す」「相手に伝わる言葉で表す」の3点にまとめた。そして、「表情や動作などで表す」から「自分なりの言葉で表す」を「①思いを言葉にする」段階、「自分なりの言葉で表す」から「相手に伝わる言葉で表す」を「②思いを言葉で伝える」段階とした。幼児はこのそれぞれの発達段階を行きつ戻りつしながら、言葉による伝え合いを楽しむための経験を積み重ねていくことが分かった。

2 自分の思いを言葉で表現することを楽しむ幼児を育てるための援助について

友達と関わりながら遊ぶ場面の事例検討を通して、「表2 自分の思いを言葉で表現することを楽しむ幼児を育てるための援助」を作成した。その際、本研究で導き出した自分の思いを言葉で表現するために経験させたい内容を積み重ねられるよう、各発達段階に概ね見られた課題となる幼児の姿を示し、さらにその姿に対しての援助を示すことにより、幼児の位置する段階における適切な援助を明らかにすることができた。

検証保育では、表2のキーワード化した援助を、対象児の実態に応じてより具体的にし、意識できるようにしたことで、幼児一人一人の実態に即した適切な援助を意図的に実践することができた。「①思いを言葉にする」段階では、安心して自分の思いを出せるような信頼関係が基盤となり、その上で自分から思いを言葉にすることを支える援助が必要であること、「②思いを言葉で伝える」段階では、相手を意識したりどのように伝えたらよいか自分で考えたりできるような援助が大切であることが分かった。

また、友達と関わりながら遊ぶ場面で、図2を活用し幼児の実態や課題を丁寧に捉え、表2から一人一人へのねらいを明確にした意図的な援助を導き出して実践を行った結果、それぞれの発達段階ごとに自分の思いを言葉で表現することを楽しみ、次の段階に向かう幼児の姿を捉えることができた。このことから、本研究で明らかにした保育者の援助は、自分の思いを言葉で表現することを楽しむ幼児を育てる上で、有効であったと考えられる。

VI 今後の課題

- ・ 自分の思いを表現することに焦点を絞ったため、相手の話を聞くことに関する援助を明らかにし、幼児が言葉による伝え合いを楽しむことができるよう検討する必要がある。
- ・ 本研究では友達と関わりながら遊ぶ場面に着目したが、今回整理した保育者の援助の汎用性を証明するために、その他の場面でも検証していく必要がある。
- ・ 本研究は4歳児、5歳児の事例を通して行ったため、本研究で明らかになった援助が3歳児にも有効かどうか、検証していく必要がある。

令和3年度 教育研究員名簿

幼稚園

園名	職名	氏名
千代田区立番町幼稚園	主任教諭	今野裕美
墨田区立曳舟幼稚園	教諭	伊藤亜希子
江東区立枝川幼稚園	教諭	和田真理美
品川区立二葉幼稚園	主任教諭	藤田あゆ
認定こども園世田谷区立多聞幼稚園	主任教諭	橋本奈帆
荒川区立日暮里幼稚園	教諭	菰田梓
荒川区立汐入こども園	主任教諭	◎井村果奈枝

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部授業力向上課
指導主事 俵陽子

令和3年度
教育研究員研究報告書
幼稚園

令和4年3月

編集 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849